

「横尾登山ゲートにおける登山者事前確認」 実証実験・結果報告

現状と課題

- ・ 準備不足による遭難事故
- ・ 自力対応、自助行動なき、過度な救助要請、期待
- ・ たき火、登山道外への踏み込み、指定地外での野営
- ・ カスハラによる山岳スタッフのQOLの低下



培ってきた登山文化の維持・継承に課題生じる
持続的に登山機会を提供できなくなる懸念

横尾登山ゲート実証実験によるねらい

- ・ 登山者に、自己責任の認識を持ってもらう
- ・ 登山者が、レベルに合った登山計画や自己完結の登山装備の準備をしてきている
- ・ 登山者が、自然、道、人々（山岳関係者）へ敬意を払う



遭難対策出動数の減少
山岳関係者の負担感の減少

試行期間

令和7年9月4日～12日

実証実験実施期間

令和7年9月13日～10月13日

（横尾相談所開設期間と連動）

ゲート開設時間

毎日午前7時～午後5時

実施概要

- 横尾避難小屋横に仮設ゲートを設置
信州まつもと山岳ガイド協会やまたみにゲート運用業務委託（3～6名/日）
ゲート通過者のうち代表者にチェックシート（登山計画書、ルール、装備等）の内容を確認し署名の上、提出させる（別紙参照）
併せてトレイルプログラムの協力金呼びかけも行う。
- 横尾からの最終入域時間を設定
涸沢方面14時、槍沢方面15時、蝶ヶ岳方面11時
- 上高地バスターミナル、小梨平、徳沢に事前周知看板を設置
- トレイルプログラムWebサイトに特設ページを整備
オンラインで事前チェック、署名登録可能とする



対応実績結果

試行期間： 9日間 確認票受領 計1,497枚（1日平均166枚、1日最大534枚）

実証期間：31日間 確認票受領 計8,138枚（1日平均263枚、1日最大573枚）

その他Web事前確認・署名登録 2500件 合計1万2千件の事前チェック実施

ゲート運用の状況（ゲートスタッフからの聞き取り）

○徳沢・明神発登山者は8時ころ、上高地発登山者は8時半から10時位が多く、午前中の手続きピークとなる。14時位から横尾宿泊者が多くなる。

○週末ごとに天候が悪く、利用者が集中し滞ることは少なかった。

○バリエーションルートに入る計画者、装備不足の登山者は相談員に引継。

○クレームは少々あったが、全体的にはゲートに行為的な印象。

○山小屋の一斉SNS発信や口コミにより周知の広がりが感じられた。

○外国人はほぼ無知。その出身により、備え、心得に違いがある。

○登山経路をグーグルマップ検索で行い無理な計画になっているケース散見。



成果指標

- ・ 遭難対策出動数（取組期間で昨期より減少したら成果あり）
- ・ 山岳関係者の負担感（取組期間で昨期より減った印象が得られれば成果あり）

横尾登山ゲートの効果検証へ（今期・今後の対応予定）

○山岳関係者へのアンケートの実施（12月を予定）

山小屋事業者、遭難防止対策協会等山岳関係者を対象

○関係者集団ヒアリングの実施（1月を予定）

遭難防止対策協会事務局、山小屋関係者への集団ヒアリングの実施

アンケート終了後を想定し、評価及び次年度に向けた意見を聴取

検証し、次年度の改善に向け検討・調整を行う。

「横尾登山ゲートにおける登山者事前確認」 実証実験（2年目に向けて）

初年度の成果

- 安全意識づけの一定の効果があった。利用者もおおむね好意的な反応
- 登山相談のスクリーニングができ、指導を要する者に補導活動を実施できたなど、遭難リスク低減に寄与したとの声もあった。
- 紅葉期の涸沢の利用者層（日本人高齢者層）、外国人登山者においては今期のゲートは有効との声もあった。
- 長野県による啓発ゲート設置を検討する契機となった。

初年度の課題

- 広報・周知が開始直前であり、広報周知が不足していた。
- 日・英のみで多様な外国人登山者に対する十分な対応ができなかった。
- 週末天候が悪く利用集中は限定的も、待ち時間は生じてしまった。
- ストックキャップの販売等のフォロー体制が十分ではなかった。
- 保険未加入者への対応に苦慮。特に外国人向け保険商品はなかった。
- 実施期間が短く、効果測定が難しかった。他の登山口との比較も困難。
- 効果実感の範囲は横尾－涸沢の範囲。稜線山小屋までの効果は見えず。

次年度も実証の継続を求める声は多い



次期実証に向けた改善検討ポイント

- 早期広報と成果の可視化
 - メディア・SNSを活用し早期広報、活動目的（安全と環境保全）を周知
 - 登山者の協力による成果を数値や画像でフィードバック
- 外国人登山者への対策強化
 - 多言語対応としてGoogle翻訳等に対応できるように通信環境を確保
 - 訪日前、入山前の事前周知スキーム構築
- 効率的な運用体制への最適化、フォロー体制整備
 - シルバーウィークを控えるR8シーズンは効率化が必須
 - 装備チェック記載法の改善、必須装備と推奨装備の仕分け
 - チェック票のバス車内や上高地バスターミナルでの配布
 - WEB事前申請の標準化、登山アプリ・登山計画書との連携
 - 販売用ストックキャップの準備、当日加入可能保険商品の用意
- 実施期間の拡充、面的な活動展開
 - 期間延長を検討（遭対協から延長希望有り）
 - 長野県でも実施を検討しているので、連携して実施。

指定登山道の登山口における 最終入域時間の設定看板の設置

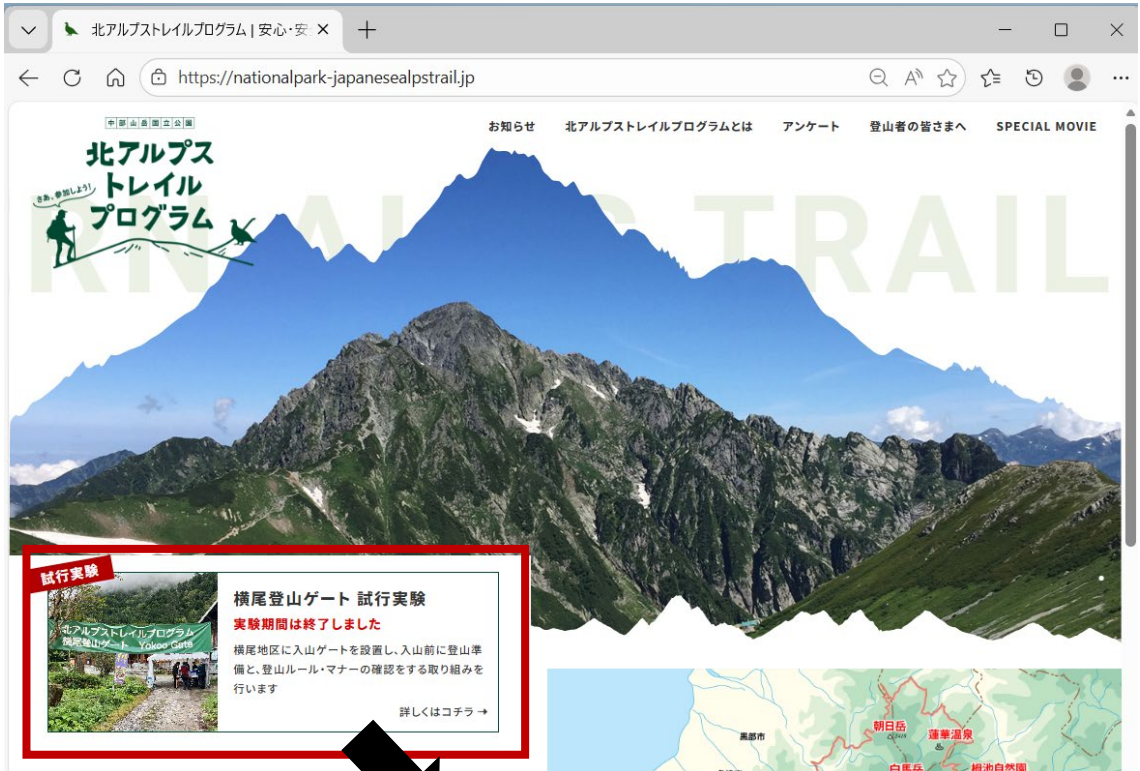


登山口・目的地
ごとに変更

登山口・目的地
ごとに設定

北アルプス南部地
区山岳遭難防止対
策協会も加えたい。

参考：横尾登山ゲート試行実験におけるWEBサイト (北アルプストレイルプログラムサイト)での周知



SPECIAL MOVIE



登山者の皆さま
安心・安全な登
楽しんでいただ

令和8年度 長野県における実証を北アルプスで実施する場合に一体的な取り組みにすることが効果が期待できる。双方の取り組みをこのサイトに組み入れて連動させ、合同で周知を図っていく必要あり

横尾登山ゲート試行実験

実験期間は終了しました。
ご協力いただきありがとうございました。

近年、自己責任による登山という認識不足、登山計画や登山装備の準備不足による山岳遭難・山岳事故の発生、登山ルール・マナーが守られず、自然生態系の劣化や他の登山者の良好な登山体験の提供機会が阻害される事例が発生しています。
今シーズン、北アルプストレイルプログラム(登山道維持に登山者が参加する取り組み)の一環で、横尾地区に入山ゲートを設置し、**入山前に登山準備と登山ルール・マナーの確認**を行う取り組みを行うこととしました。
以下の内容を確認し、登山の際は「横尾ゲート登山準備・登山ルール確認票」へ署名と、指定のポストへの投函をお願いします。

実施概要

【実施期間】 2025年9月13日(土)～2025年10月13日(火・祝) ※横尾相談所開設時期
※2025年9月4日(木)から9日間を施行期間とします。

【実施場所】 横尾登山ゲート(横尾遊歩小笠橋に設置)



現場での流れ(横尾登山ゲートでお願いしたいこと)

1. 横尾遊歩小笠橋のゲートにお立ち寄りください。
2. 「登山準備・登山ルール確認票」をご確認いただき、署名と提出(指定ポストへの投函)をしてください。
※「確認票」を事前ダウンロードし、ご記入の上、持参いただくスムーズです。

確認票ダウンロード

登山準備・登山ルール確認票 (PDF)

【紙で提出する場合】

- 確認票を事前にダウンロード、印刷、ご記入の上、当日ご持参ください。
- ゲート橋に設置している指定ポストにご投函ください。

【オンラインフォームで提出する場合】

- Googleフォームからチェック・ご署名いただけます。
 - 入力後に届く確認メールを、ゲートでスマートフォン画面等でご提示ください。
- オンラインフォームはこちら

3. 可能な方は、登山道維持協力会へのご協力もあわせてお願いいたします。
協力会について

オンラインフォーム